

名前：

今日のインターネットの世界的普及により、情報メディアの役割の変化が著しい。インターネットの情報メディアとしての利点を挙げられることに、まずアクセスの容易さがある。世界中の情報を、いつでも自由に即座に得ることができ、また、共有可能な情報量が無限であること、情報を迅速に共有できることも大きな利点がある。更に、時間的、空間的制約を超越して双方向的な情報交換を行うことも可能である。上記の利点は、情報伝達までの時間ラグが大きく、紙幅の制限も強く受け、一方的に情報を流すだけの新聞や雑誌といった情報メディアと比べると、その優位は非常に顕著である。

しかし、だからといって新聞や雑誌が情報メディアとしての必要性を失うとは考えずらい。その理由として以下のことが挙げられる。第一に、匿名性の問題である。インターネットにおいては、情報発信者の匿名性がほとんどの場合保証される。そのため、情報発信者

の情報に対する責任意識は極めて低い。これに対し新聞や雑誌は、その内容に社会的責任が求められるため、情報が真実であるか慎重に吟味され、受信者の情報に対する信頼度も高い。二つ目に、情報の取捨選択の問題がある。インターネット上には膨大な情報が氾濫しており、その選択は受信者に一任される。他方新聞や雑誌は、その作業を記者が引き受けるため、受信者にとっては容易に有益な情報に辿り着くことが可能である。三つ目に、一番大きな問題として、情報の源泉の違がある。新聞や雑誌は、記者が自ら取材をすることによって情報をつくり出す。いわば情報発信者とメディアが一体となった機構といえる。しかし、インターネットは媒体の枠を超えることはなく、情報の源泉は各々の受信者に依存するのみである。

以上より、新聞や雑誌は、受信者との間にインターネットという更なる媒体を挟む余地はあるが、その必要性を今後失わないだろう。